

第6章 「交野の歴史文化」の一体的・総合的な保存と活用による魅力創出

6-1. 一体的・総合的な保存と活用の考え方

これまで交野市の文化財行政が掲げてきた「自然と歴史を通じたまちの発見」をもとに、第4章で本計画の基本理念を「残して、活かそう交野の文化財、つなごう未来、次世代へ」と決めました。

この基本理念の実現のため、第5章で抽出した課題を解決する必要があります。その課題解決のためには方針を立て、第7章で示す措置を行います。課題の解決には行政だけでなく、市民や各地区、文化財に関係する各種団体や文化財所有者等にも措置に取り組んでもらう必要があります。そのためには、なによりも「交野の歴史文化」に新たな魅力を感じてもらうことが必要です。本章ではこの魅力創出のための施策、「関連文化財群」と「文化財保存活用区域」の設定について説明します。

6-2. 関連文化財群と文化財保存活用区域

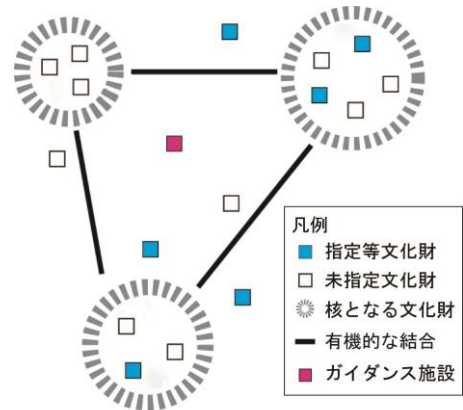
「関連文化財群」は、未指定を含む様々な文化財を、「交野の歴史文化」の6つの特色から構築するストーリー（物語）によって紐付けして一体的に保存・活用し、「交野の歴史文化」を後世につなげるために設定します。

「文化財保存活用区域」は、一定範囲内に残る数多くの文化財を、面的に捉えることによって総合的に保存・活用し、歴史的文化的に豊かな空間を維持・向上するため設定します。

関連文化財群

第3章で抽出した6つの「交野の歴史文化」の特色ごとに題名（テーマ）と主人公を定め、ストーリー（物語）を構築します。このストーリーによって、核となる文化財を基軸とし、「交野の歴史文化」を有機的に結び付け、「関連文化財群」を設定します。

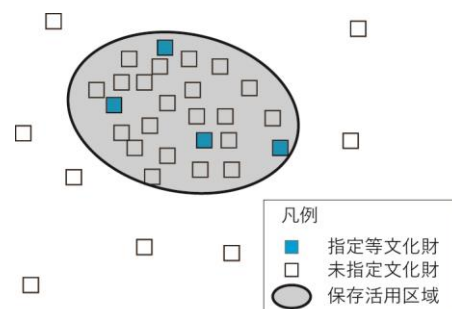
個別に取り扱われることの多かった文化財を「関連文化財群」として一体的に捉えて、保存・活用のための課題・方針を立て、措置をとることにより、「交野の歴史文化」の魅力創出を目指します。



文化財保存活用区域

「交野の歴史文化」が集中し、色濃く残る旧村域である「私部」と「星田」の2地区を「文化財保存活用区域」として設定します。

これら地区の多様な「交野の文化財」と「周辺環境」を面的に捉え、魅力を創出するための課題・方針を立て、措置をとり、保存・活用を図ります。これにより、旧集落内での魅力的な空間の創出につながることを期待されます。



6-3 関連文化財群の保存と活用

第3章で整理した「交野の歴史文化」の6つの特色から、以下の表に示したとおり、6つの関連文化財及び主人公（関連する中心人物）を設定しました。これらの魅力ある関連文化財群をもとに、市民・地区・関係団体等の主体的な参加を促し、「交野の文化財」をその「周辺環境」も含めて「交野の歴史文化」として守り、活かす取組みを展開します。

また、市内10施設（文化拠点）には「交野の歴史文化」を盛り込んだ「歴史散策マップ」を配置し、円滑に関連文化財群を散策できるよう利便性を高めます。図書館（室）3カ所は郷土史コーナーが併設されています。交野市立教育文化会館は「交野の歴史文化」をより詳しく知ってもらうためのガイダンス施設として活用します。教育文化会館と青年の家には案内及び説明員を配置します。

表：「交野の歴史文化」の特色と主人公と6つの関連文化財群の対応

「交野の歴史文化」の特色	主人公 (文化財に関する歴史資料や伝承等)	6つの関連文化財群 題名(テーマ)
交野の王が築いた歴史文化 (第3章 53頁)	肩野物部氏 (鉄の王) (第2章 37頁)	①交野の王墓と鉄器生産 ～古墳時代に活躍した鉄の王の物語～ (第6章 70～71頁)
天野川の流が生む歴史文化 (第3章 54頁)	惟喬親王・在原業平 (第2章 37頁)	②天野川と七夕伝承 ～七夕にまつわる平安貴族の物語～ (第6章 72～73頁)
巨石信仰がもたらした歴史文化 (第3章 54頁)	弘法大師 (空海)・役行者 (第2章 37頁)	③巨石信仰と社寺伝承 ～巨石にまつわる超人たちの物語～ (第6章 74～75頁)
交野の城に残る歴史文化 (第3章 55頁)	安見右近 (第2章 37頁)	④交野の城と安見氏の記憶 ～砲術家として活躍した戦国武将の物語～ (第6章 76～77頁)
伝統的な集落に継承された歴史文化 (第3章 56頁)	交野の代官と庄屋 北田騰造・山添平精 (第2章 37頁)	⑤徳川支配と伝統的な町並みの成立 ～徳川の世に村々を治めた代官庄屋の物語～ (第6章 78～79頁)
交野の近代産業が織りなす歴史文化 (第3章 58頁)	原田元治郎・金澤泰治 (第2章 37頁)	⑥近代産業と鉄道の発展 ～二人の偉人が交野の産業を興した物語～ (第6章 80～81頁)

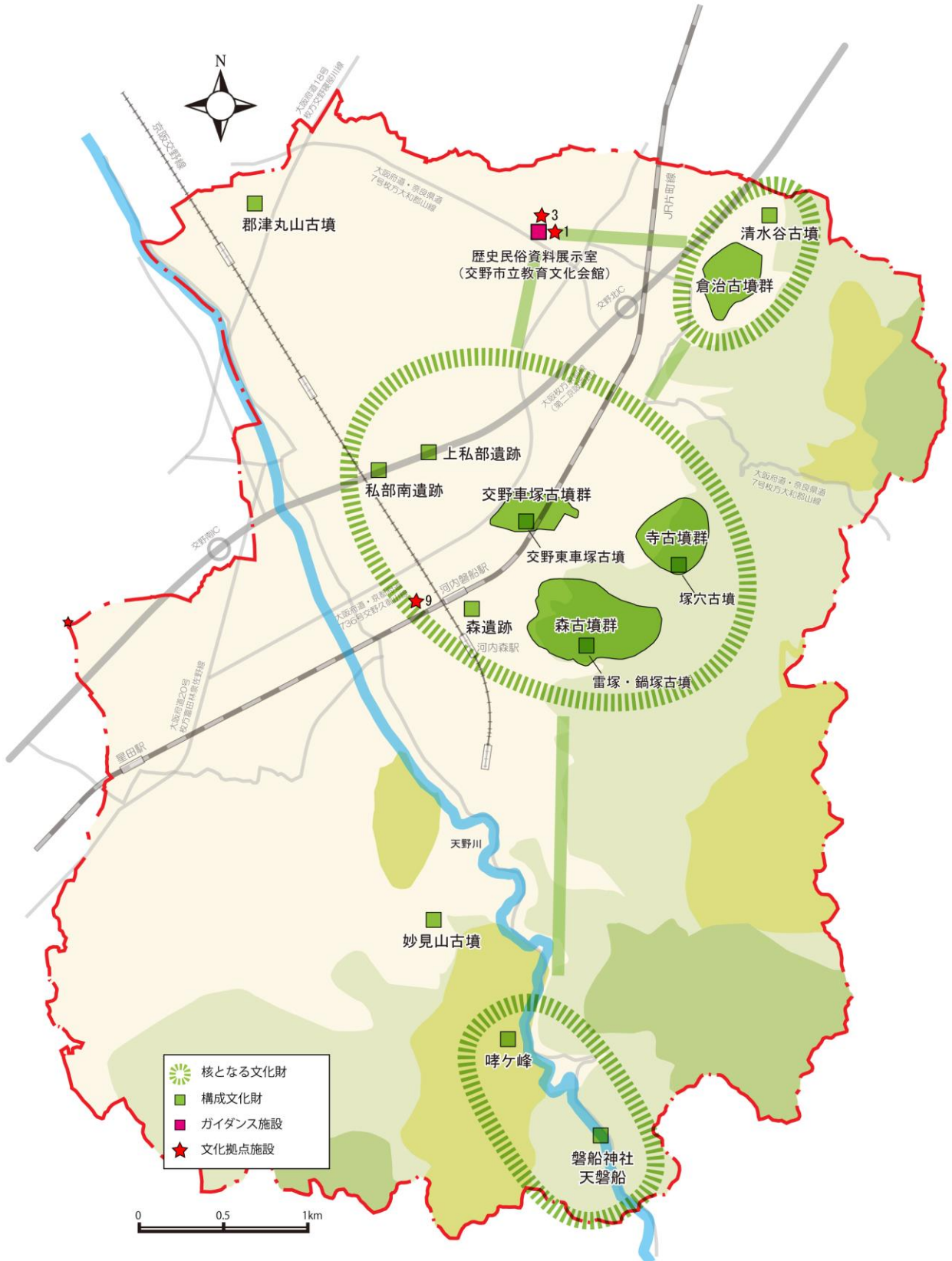
表：文化拠点施設一覧表

番号	文化拠点施設	所在地	郷土資料コーナー	案内及び説明員
★ 1	教育文化会館 (ガイダンス施設)	倉治 6-9-21	○	○
★ 2	第1児童センター	幾野 2-6-1	×	×
★ 3	倉治図書館	倉治 6-9-20	○	×
★ 4	いきものふれあいセンター	倉治 2935-1	×	×
★ 5	市役所	私部 1-1-1	×	×
★ 6	青年の家	私部 2-29-1	○	○
★ 7	いきいきランド	向井田 2-5-1	×	×
★ 8	星の里いわふね	私市 9-4-8	×	×
★ 9	ゆうゆうセンター	天野が原町 5-5-1	×	×
★ 10	星田会館図書室	星田 3-4-3	○	×

<p>テーマ① 交野の王墓と鉄器生産 ～古墳時代に活躍した鉄の王の物語～</p>	<p>主人公 肩野物部氏（鉄の王）</p>
<p>【ストーリー】</p> <p>○交野の王の伝説 本市では、前方後円墳等からなる森古墳群をはじめとして交野車塚古墳群・寺古墳群など、300年以上続いた古墳時代をとおして連綿と古墳が築かれました。豪勢な副葬品や埴輪など当時の最新文化が詰まった古墳に葬られたのは、地域を支配した「交野の王」でした。</p> <p>その姿を知る手がかりが『先代旧事本紀』の神話です。これによると、物部氏の祖神・饒速日命が空飛ぶ岩船に乗り、多くの物部氏や日本在来の倭鍛冶の祖「天津真浦」を連れ「哮が峰」に降臨したとされます。私市地区には「天の磐船」という巨岩を御神体とする磐船神社、その背後にそびえる哮が峰という岩山があり、物部氏の神話が色濃く残されています。物部氏のうち、交野を拠点とする「肩野物部氏」が古墳時代に活躍した王とみられます。</p> <p>○鉄器生産を掌握した交野の王 日本列島で手工業生産が発展した古墳時代中期の王墓である交野車塚古墳群の目前には、多くの集落・生産遺跡が広がります。私部南遺跡、上私部遺跡など、開発の進展を示す大規模な集落遺跡とともに、特に生産を特徴づける遺跡が、大量に鍛冶遺構・遺物がみつかる森遺跡です。発掘調査の成果からは、日本列島の在来の鍛冶技術と、外来の鍛冶技術が合わさった鉄器生産が行われていたことがわかっています。なお、この頃の倉治古墳群や、鍛冶に伴う鉄滓が出土した清水谷古墳は石室の形態から、渡来系の工人の墓域とみられます。なお、岡山県津山市周辺の古墳時代製鉄遺跡周辺に肩野物部氏の伝承があり、鉄器の素材の一部はこの地域から持ち込まれたと考えられています。</p> <p>○交野の王たちのその後 森遺跡で見つかった鍛冶工房は、後の飛鳥時代以降の鍛冶生産の形態に通じるところがあり、日本伝統の鍛冶技術に影響を与えたと考えられます。平安時代の記録に出てくる交野郡司に守部連が見えますが元は鍛冶造と呼ばれ、鉄器工人でありました。彼らが官営工房の成立にも深く関わっていた工人の末裔と考えられます。</p> <p>こうした交野の王墓や生産・集落遺跡の出土品は歴史民俗資料展示室（交野市立教育文化会館）で見ることができます。交野の古墳時代を古墳や遺跡そしてその出土品、さらに地域に残る神話や伝説が交野の王たちの姿を描きだします。</p>	

【「交野の王墓と鉄器生産」の主な構成文化財】

種 類			主な構成文化財	
有形文化財	美術工芸品	考古資料	森古墳群出土品、交野東車塚古墳出土品〔府指定〕、交野車塚古墳群出土品、寺古墳群出土品、倉治古墳群出土品〔市指定〕、清水谷古墳出土品、森遺跡出土品、妙見山古墳出土品	
記念物			遺跡	森古墳群、鍋塚古墳、交野車塚古墳群、交野東車塚古墳〔府指定〕、寺古墳群、倉治古墳群、清水谷古墳、森遺跡、上私部遺跡、私部南遺跡、上の山遺跡、郡津丸山古墳、妙見山古墳、焼垣内遺跡
			名勝地	哮が峰、天の磐船（磐船神社）
文化的景観			天の樟船溪谷の朝霧	
周辺環境			森・交野車塚・寺古墳群周辺の環境、私市文化財保護推進委員会、饒速日命神話、歴史民俗資料展示室	

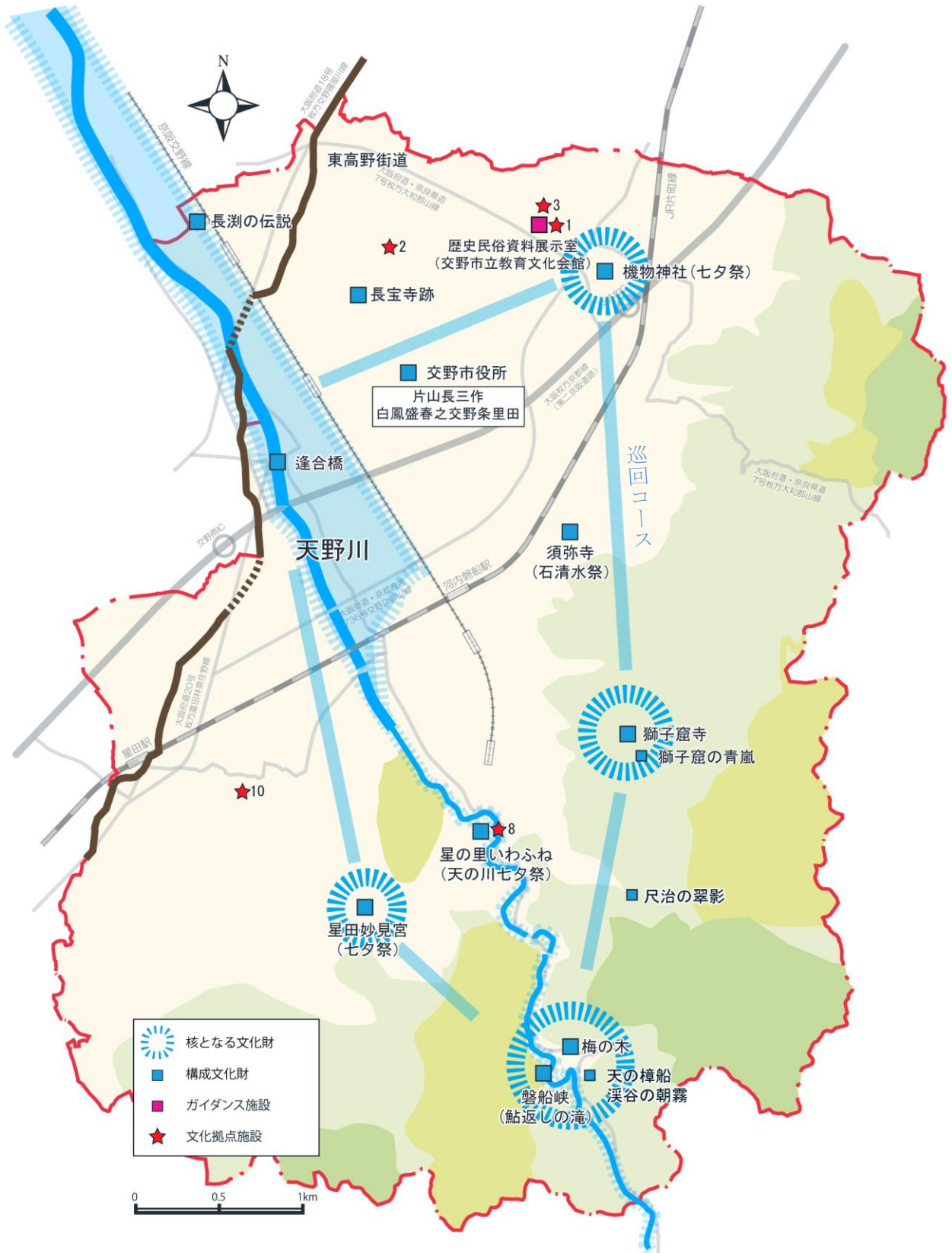


図：交野の王墓と鉄器生産

<p>テーマ② 天野川と七夕伝承 ～七夕にまつわる平安貴族の物語～</p>	<p>主人公 惟喬親王・在原業平</p>
<p>【ストーリー】</p> <p>○古代の交野郡 東高野街道沿いの郡津地区では古代の遺跡が多く見つっています。郡津神社境内の発掘調査では、古代寺院の存在を示す飛鳥時代から奈良時代頃の瓦が検出され、長宝寺跡と呼ばれています。この遺跡西側には、郡の役所が所在したと推定されています。郷土史家・画家の片山長三氏は、これらの調査成果をふまえて天野川と郡津を中心に古代の寺院や郡役所などを絵画に多く描きました。市役所別館にそのうちの1つが今も展示されています。郡の役所が郡津地区周辺に置かれたことから、奈良時代から都との関係が深かったとみられます。</p> <p>○天野川と平安貴族 生駒山を源に、山地から平野部を縦断する河川が天野川です。江戸時代に貝原益軒は獅子窟寺からこの川を眺望し、「天上の銀河の形の如し」と形容しており、白砂の美しい川でした。その流域の交野市と枚方市の一部は、「交野が原」と呼ばれ、桜の名所、平安貴族の遊興の地として有名でした。枚方市域周辺には身分の高い者のみに狩りが許される「禁野」が設定され、平安時代の貴族が鷹狩りにやってきました。中でも、文徳天皇の皇子・惟喬親王と在原業平はともに交野の地を多く訪れ、数多くの和歌を残しました。業平が、天野川の畔に来て、天上の天の川になぞらえ、「七夕」を題材にして詠んだ「狩り暮らし棚機津女に宿借らむ、天の河原に我は来にけり」は特に有名です。こうした平安貴族の往来は、交野を舞台にした物語や伝承を多く残しました。在原業平を主人公のモデルにしたといわれる『交野少将物語』には、平安時代の交野郡司の娘が、交野少将に失恋して天野川のよどみ（長淵）に飛び込んでしまったとする悲話がかかります。この「長淵」の地名は交野の郡津に残っています。郡津地区にはこのほかに、茶屋で惟喬親王が休息をしたとの伝承や、狩りで親王が弓を引いたという「ゆみのこ田」という地名が残ります。</p> <p>○七夕伝承の広がり 七夕伝承の中核は織姫を祭神とする機物神社です。創建年代は不明ですが、所蔵の十六善神像の記載から、室町時代には倉治付近の郷社となっていたことが分かります。江戸時代の「金丸又左衛門役絵地図」に星田妙見宮を「牽牛」と記しており、この時代からは倉治と星田間での伝承もあったようです。機物神社と星田妙見宮で行われる七夕祭はいずれも一時期途絶えていましたが、昭和時代に再興され有名になっています。今日も交野・枚方両市では織姫と彦星がマスコットとして広く受け入れられ、天の川七夕祭など「七夕伝承」が継承されています。</p>	

【「天野川と七夕伝承」の主な構成文化財】

種 類		主な構成文化財
有形文化財	建造物	獅子窟寺本堂、機物神社本殿、星田妙見宮本殿（小松神社）
	美術	絵画 十六善神図（機物神社）
	工芸品	古文書 機物神社文書、星田妙見宮文書、金丸又左衛門役絵地図
民俗文化財	有形	機物神社蔵機織り機
	無形	機物神社七夕祭、星田妙見宮七夕祭
記念物	遺跡	東高野街道、長宝寺跡、交野郡衙跡
	名勝地	天野川、磐船峡〔府指定〕
文化的景観		妙見の観桜、天の樟船溪谷の朝霧
周辺環境		東高野街道周辺の環境、機物神社周辺の環境、妙見宮周辺の環境、私市文化財保護推進委員会、交野少将物語、七夕伝承、天の川七夕祭、郡津の茶屋跡、歴史民俗資料展示室



図：天野川と七夕伝承

テーマ③ 巨石信仰と社寺伝承 ～巨石にまつわる超人たちの物語～	主人公 弘法大師（空海）・役行者
<p>【ストーリー】</p> <p>○交野の巨岩群と信仰 巨岩・奇岩の多い本市の山々は、古くから修験道の行場になりました。鎌倉時代の『諸山縁起』の葛城山北峯の17の宿のうち、「石船（現・磐船神社）、師子石屋（現・獅子窟寺）、金剛寺（現・傍示地区）、甲尾（現・交野山）」が市域にありました。これらの地では現在も巨岩をみるることができます。磐船神社にはご神体の巨岩「天の磐船」があります。その東側の巨岩は室町時代初期の四尊磨崖石仏が彫られ「四社明神」と呼ばれます。獅子（師子）石屋とは巨岩が積み重なる様子が吼える獅子にたとえられたものです。金剛寺は傍示地区に地名が残るのみですが、近くの竜王山に竜王石などの巨岩群が残ります。甲尾とは交野山のことで、山頂の観音岩をはじめとして山中の巨岩群が信仰を集め、中世山岳寺院が興り、江戸時代に岩倉開元寺と呼ばれました。近年の調査で室町時代には神尾寺と呼ばれていた寺もあったこともわかってきました。</p> <p>○弘法大師（空海）の足跡 獅子窟寺は役行者が金剛山から来て開山し、次に聖武天皇の勅命で、行基によって堂塔が建立されたといわれています。平安時代に獅子石屋で弘法大師が修行した折に、天から北斗七星が星田地区の3か所に降りたとされます。星田寺や山中にあった小松寺とともに弘法大師と繋がり深い京都の東寺の末寺です。両寺については当時の様子を示す古文書が市外に現存しており、興味深いことです。</p> <p>私市の千手寺は、鎌倉時代、龜山上皇が獅子窟寺の薬師如来坐像へ病気回復祈願のために所在した地に建立したといわれる寺院です。現在は廃寺ですが収蔵庫が置かれ、弘法大師像も安置されています。竜王山の八大竜王社は、淳和天皇の命により弘法大師が竜王を祀り雨乞いをしたことが始まりだとされます。雨乞いの成功により大師は傍示地区に八葉蓮華寺の建立が許され、その周りには八坊を建てたとされます。同寺には国重要文化財の快慶作である阿弥陀如来立像があります。</p> <p>また、星田地区の東高野街道周辺には、弘法大師を祀る大師堂が15か所あり、現在も地域の人達がお参りを続けています。市域には役行者や大師の足跡が、現在も色濃く残ります。</p>	

【「巨石信仰と社寺伝承」の主な構成文化財】

種 類		主な構成文化財	
有形文化財	建造物	獅子窟寺本堂、薬師寺本堂、星田寺本堂、光明寺本堂、半尺口大師堂、乾町大師堂、野辺橋大師堂、光林寺大師堂、中川筋大師堂、東辻屋町大師堂、札町大師堂、旧松岳庵大師堂、慈光寺大師堂、上口町大師堂、大谷北大師祠、大谷南大師祠	
	美術工芸品	彫刻	薬師如来坐像（獅子窟寺）「国宝」、阿弥陀如来立像（八葉蓮華寺）[国指定]、如意輪観音坐像・聖観音立像（廃千手寺）[市指定]、弘法大師像（廃千手寺）、十一面観音立像（星田寺）[市指定]、薬師如来立像・千体仏（星田薬師寺）[市指定]、弘法大師像、他石仏類・塔類（星田薬師寺）、観音岩（交野山）
		考古資料	獅子窟寺梵文光明刻銘瓦質土器 [市指定]
記念物	遺跡	小松寺跡、獅子窟寺遺跡	
	名勝地	獅子石屋（獅子窟寺）、天の磐船（磐船神社）、織女石（星田妙見宮）、星御前（光林寺）、星の森、竜王石（八大竜王社）、陽石（須弥寺）	
文化的景観		交野山の来光、獅子窟の青嵐、星の森の寒月、妙見の観桜、天の樟船溪谷の朝霧	
周辺環境		八葉蓮華寺周辺の環境、観音岩周辺の環境、妙見宮周辺の環境、弘法大師と八丁三所伝説、龜山上皇、歴史民俗資料展示室、獅子窟寺王の墓清掃活動（古文化同好会）	

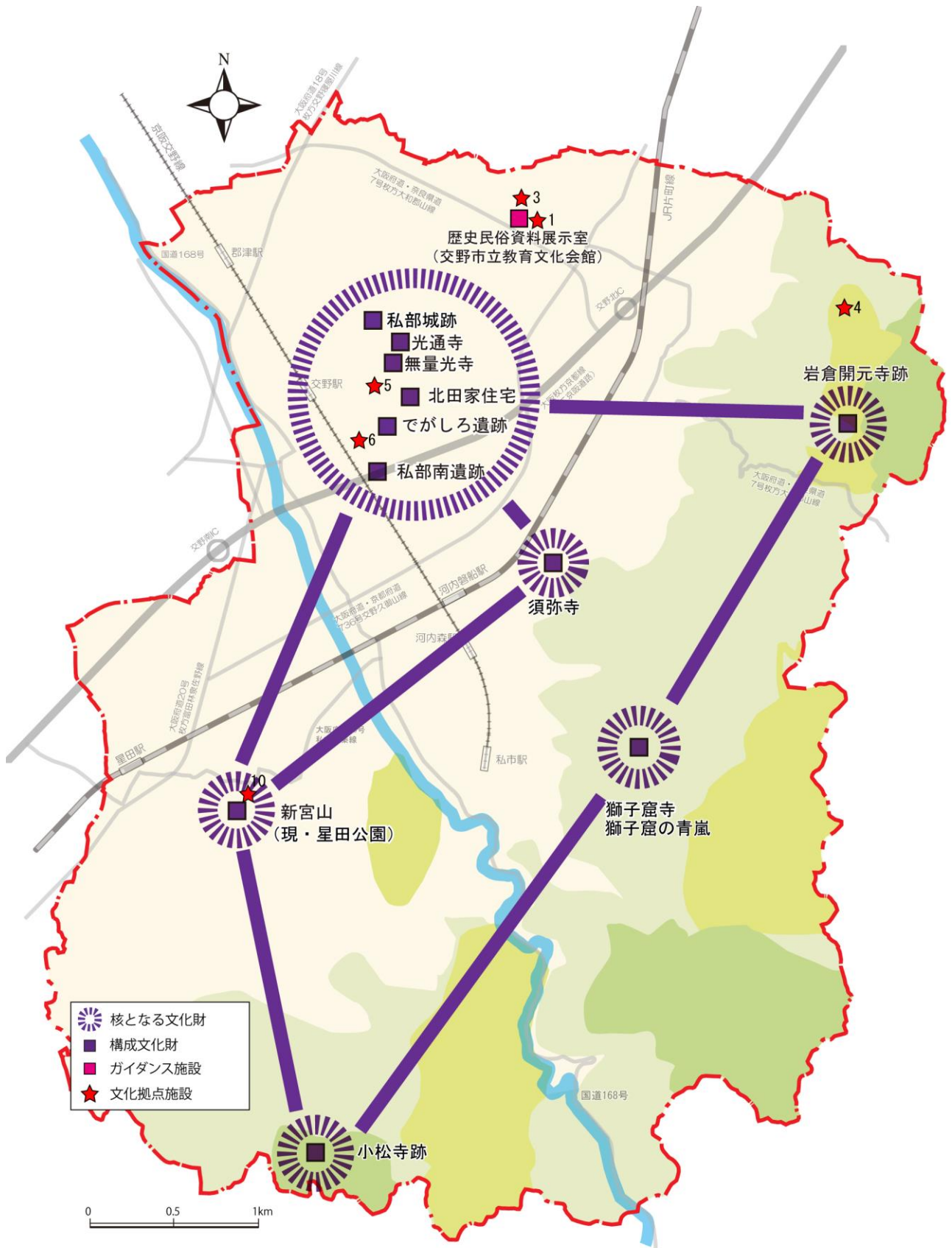


図：巨石信仰と社寺伝承

<p>テーマ④ 交野の城と安見氏の記憶 ～砲術家として活躍した戦国武将の物語～</p>	<p>主人公 安見右近</p>
<p>【ストーリー】</p> <p>○交野の城と安見右近 私部城は、現在は大阪府内で数少なくなった遺構を保つ室町時代後期の平地城郭です。歴史上は「交野城」の名で知られ、京都・河内・大和の中間地点にあたる北河内の広域をおさえる重要な城でした。この城主となった者が安見右近です。城主となる以前から、星田地区に拠点を置き、石清水八幡宮への米の奉納を断るなど権力を備えており、その力は枚方寺内町まで及びました。その後、松永久秀の配下に加わり、奈良県側の合戦に参加し、その功績が認められたのか、元亀元(1570)年頃、私部城の城主として歴史の表舞台に出ました。</p> <p>右近は、織田軍にいち早く接近し、織田家重臣の佐久間信盛の娘を妻とします。これが裏目に出たのか、織田軍から離れつつあった松永久秀によって右近は自刃に追い込まれ、私部城は攻められました。この戦いで久秀は近隣の枚方市津田城など付城を置いています。森地区の須弥寺は久秀の砦と伝わる他、私部南遺跡で発見されたこの頃の薬研堀も砦の一部とみられます。城主死去の危機ながら織田の援軍を得て私部城は城主代理の安見新七郎により守られました。この後も安見氏は織田政権下で北河内をおさえましたが、本能寺の変以後に近畿地方から去りました。</p> <p>○安見氏の活躍 安見右近らと同族の安見宗房は、近畿地方周辺で活躍し四條畷市・大東市の飯盛城城主となっています。安見氏は下克上を達成した一族でした。私部城の右近と同一人物か不明ですが、安見右近と名乗る人物が江戸時代の安見流砲術の始祖とされています。安見氏は優れた砲術によって、私部城から愛媛県へ移り河後森城主となり、慶長の役への参戦を経て石川県に移り加賀藩前田家に仕えました。一方で、私部地区の光通寺などは右近により迫害されたと伝えるなど悪人のイメージも強い一族でした。加賀藩の安見隠岐は、荒々しい性格で平穩の世になじめなかったようです。</p> <p>江戸時代初期の軍記物語『室町殿日記』には、宗房や右近らをモデルとした安見一族の活躍が記されています。城主亡き後妻が私部城に立てこもり、史実とは異なるものの砲術を駆使して織田軍に対抗したと語られており、私部城や安見氏の記憶が、後世に強く残ったことを伝えています。安見氏を描いた『安見隠岐の罪状』や『右近と秀長一傍示の城』といった歴史小説があり、安見氏と交野の城の物語は現代の人々の関心を捉えています。</p>	

【「交野の城と安見氏の記憶」の主な構成文化財】

種 類		主な構成文化財	
有形文化財	建造物	北田家住宅 [国指定]、無量光寺本堂、光通寺本堂、須弥寺本堂	
	美術	工芸	半鐘 (無量光寺)
		古文書	光通寺棟札、光通寺文書
	工芸品	考古資料	私部城跡出土品、岩倉開元寺跡出土品 [市指定]、新宮山遺跡出土品、小松寺跡出土品
記念物	遺跡	私部城跡 [市指定]、岩倉開元寺跡、新宮山遺跡、小松寺跡、私部南遺跡、でがしろ遺跡、須弥寺遺跡、東高野街道	
文化的景観		かいがけの錦繡、交野山の来光	
周辺環境		私部城周辺の環境、『室町殿日記』、安見右近、歴史小説『安見隠岐の罪状』(戸部新十郎)、平井正道、歴史民俗資料展示室、私部城での子供向け活動(私部城を活かし守る会)	

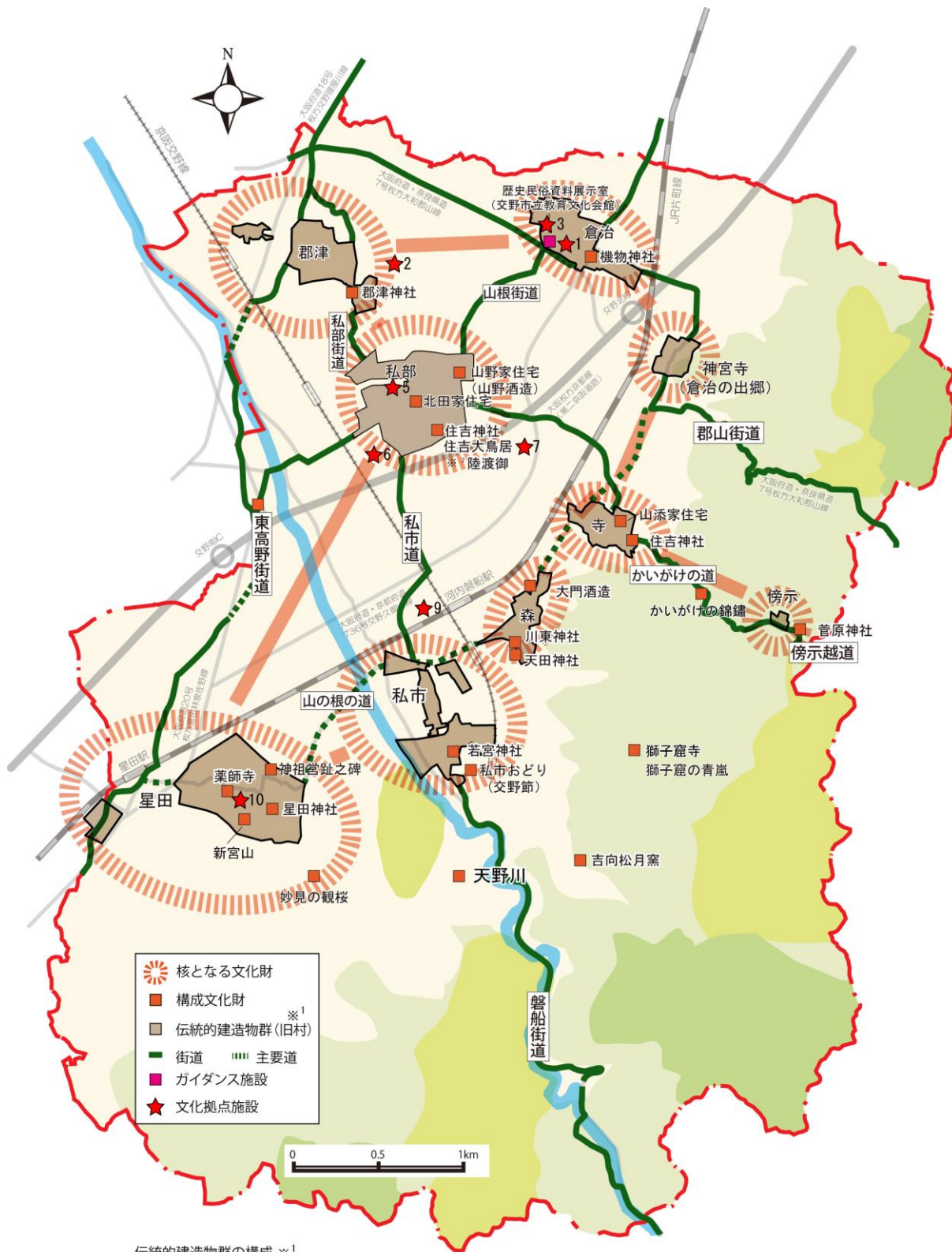


図：交野の城と安見氏の記憶

テーマ⑤ 徳川支配と伝統的な町並みの成立 ～徳川の世に村々を治めた代官と庄屋の物語～	主人公 交野の代官と庄屋
<p>【ストーリー】</p> <p>○徳川家康と星田の平井家 江戸時代、安定した世の中を開いた徳川家康に縁の深い一族が、星田の庄屋・平井家です。本能寺の変の時、平井家は三河へ帰還しようとする家康を星田地区の竹藪（伝家康ひそみの藪）に潜ませた後、案内人をつけて助けたといわれています。その後、徳川・豊臣の最後の戦いである大坂夏の陣の時、市内も戦乱に巻き込まれ、私市地区の獅子窟寺は豊臣方に焼き討ちされたと伝わります。星田地区は徳川方についた市橋長勝という武将が防衛し、家康を迎え入れました。家康は新宮山（現・星田公園）で松の木に軍旗を掲げ（旗掛け松）、陣を張りました。家康はこの時平井家に宿営した後、大坂城へ向かいました。この戦に家康は勝利し、徳川幕府はゆるぎないものとなります。市橋家は江戸時代末まで星田地区で所領を維持し、寛政 11 (1799) 年にその事績を伝える神祖當趾之碑を建立しています。</p> <p>○代官や庄屋の活躍 江戸時代、市内は 8 つの村に分けられ、代官や庄屋が治めました。中でも 18 世紀の私部村畠山家所領の代官・北田家が有名で、豪壮な門構えの北田家住宅は、現在も代官屋敷と呼ばれ親しまれています。寺村の庄屋の山添家は、村人に慕われ、その住宅は現在も茅葺屋根の貴重な姿を残しています。代官や庄屋の統治のもと、市内でも様々な産業が発展しました。その頃、酒造家は市内合わせて最大 23 軒を数えます。現在でも大門酒造と山野酒造が操業しており、北河内では唯一の伝統的酒造業が残った市となっています。また当時は現在の大阪府から奈良県域にかけては綿作が盛んで、特に大阪府東部のものは「河内木綿」と呼ばれていました。星田地区では特に機織りも盛んで「星田縞」は有名でした。江戸時代の「だんじり」祭は一部が現在も維持されており、盆踊りの際に踊られた「交野節」は「私市おどり」として受け継がれています。代官や庄屋の家に残る古文書から、江戸時代の道や水路、町割りが現在の町並みの基礎となっていることが分かります。そして現在の旧 8 か村の町並みには、絵図などから江戸時代の趣を色濃く残していることがわかります。</p> <p>また、「吉向松月窯」は京の楽焼きに学んだ初代吉向が文化元（1801）年に大阪市淀川区十三で開窯し、昭和 55 年から本市私市において九世吉向松月が、伝統的な技法を継承しています。</p>	

【「徳川支配と伝統的な町並みの成立」の主な構成文化財】

種 類		主な構成文化財	
有形文化財	建造物	北田家住宅 [国指定]、山添家住宅 [国指定]、山野家住宅 [国登録]	
	美術 工芸品	古文書等	星田村地誌帳 [市指定]、星田村絵図 [市指定]、北田家文書、山添家文書、森村庄屋文書、平井家文書、傍示村文書
		歴史資料	神祖當趾之碑 [市指定]
無形文化財		大門酒造、山野酒造、吉向松月窯	
民俗文化財	有形	「だんじり」（星田神社、私部住吉神社、天田神社、川東神社、寺住吉神社）、機織り道具（交野市所蔵）、「河内木綿」製品	
	無形	陸渡御（私部住吉神社）、私市おどり（交野節）	
記念物	名勝地	天野川、旗掛け松	
伝統的建造物群		郡津の町並み、倉治の町並み、神宮寺の町並み、私部の町並み、森の町並み、寺の町並み、傍示の町並み、私市の町並み、星田の町並み	
文化的景観		妙見の観桜、獅子窟の青嵐、かいがけの錦繡、東高野街道	
周辺環境		私部・星田だんじり保存会、徳川家康、伝徳川家康ひそみの藪、吉田屋藤七、大田垣蓮月、大井川万吉、歴史民俗資料展示室	



伝統的建造物群の構成 ※¹

	郡津	倉治	神宮寺	私部	森	寺	傍示	私市	星田	種別集計
1.古民家	40	46	13	39	16	34	3	44	51	286
2.土蔵	43	46	22	59	17	31	2	52	63	335
3.辻堂	0	1	0	3	2	1	1	4	15	27
4.石橋	0	0	2	2	0	0	0	0	0	4
5.洗い場	0	2	0	2	0	1	0	1	0	6
6.石造仏	4	4	4	9	6	4	4	15	29	79
7.だんじり	0	0	0	2	1	1	0	1	2	7
地区別集計	7	99	41	116	42	72	10	117	160	744

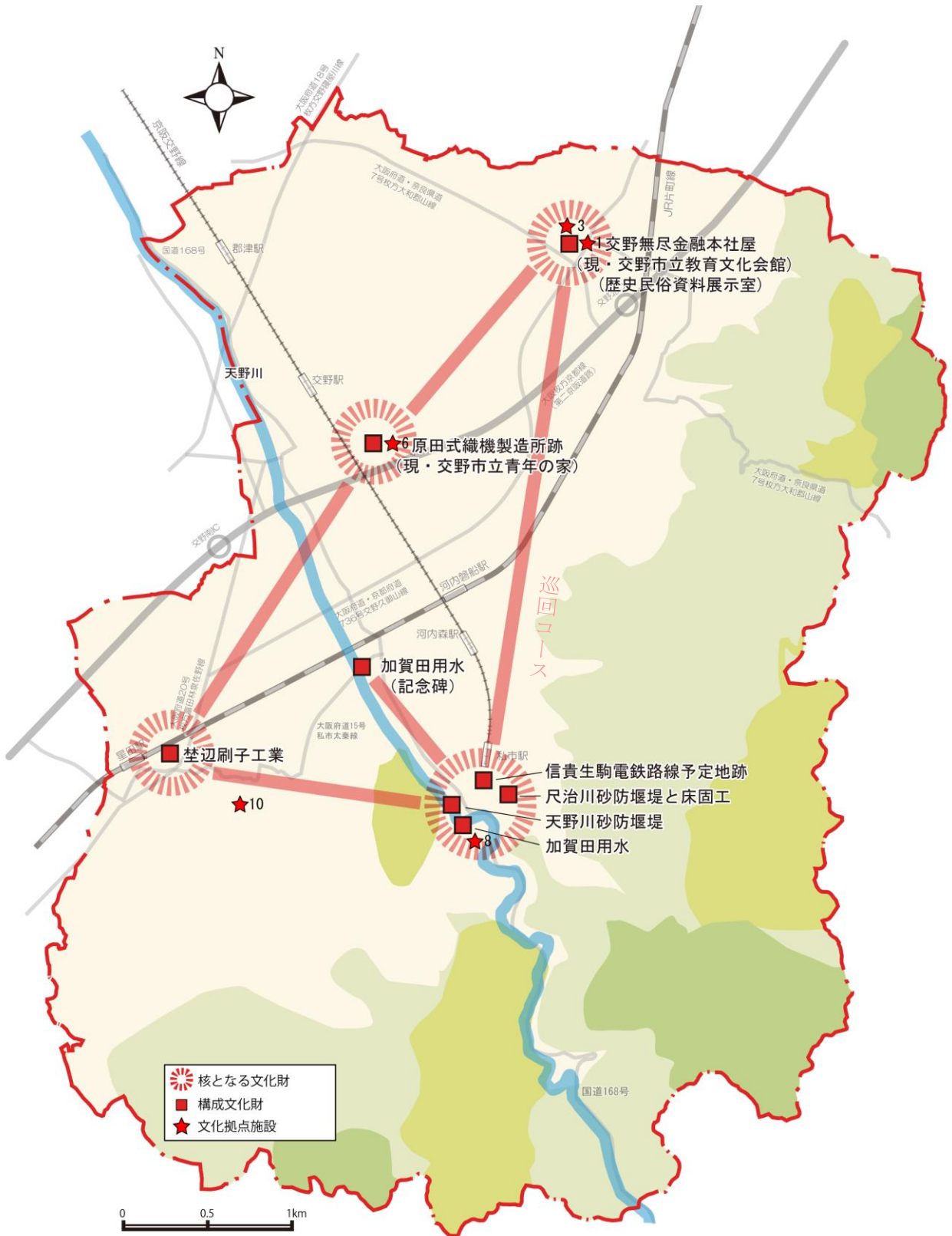
(私部)住吉神社から御旅所への陸渡御 ※²

図：徳川支配と伝統的な町並みの成立

<p>テーマ⑥ 近代産業と鉄道の発展 ～二人の偉人が交野の産業を興した物語～</p>	<p>主人公 原田元治郎・金澤泰治</p>
<p>【ストーリー】</p> <p>○交野の近代化をリードした二人の偉人 江戸時代が終わると、交野の近代化を担う二人の人物があらわれました。私部地区の原田元治郎は、機械式の「原田式織機」を発明し、織機製造所を拡大しました。倉治地区の金澤泰治は、交野無尽金融合資会社を発足させ、金融の力で当市発展の礎を築きました。その先進的な本社屋（現・交野市立教育文化会館）は交野の近代化のシンボルになりました。</p> <p>○鉄道の発展 産業の発展とともに将来の展開を見通し、原田元治郎は江戸時代の私部地区の代官職を務めていた北田家当主らとともに鉄道敷設に尽力しました。明治 31（1898）年には四條畷・長尾間が開通し、名古屋と大阪とを結ぶ関西鉄道として発展しました。明治 40（1907）年に国有鉄道に編入され、木津・片町間は関西本線の支線片町線となりました。戦時中には軍用線として利用されていたこともあり、現在では JR 学研都市線の愛称で呼ばれ、JR 東西線を介し、JR 福知山線や JR 神戸線へ直通運転を行い、大阪都心や神戸・三田方面への利便性があります。</p> <p>また、昭和 3（1928）年に枚方東口・私市を結ぶ信貴生駒電鉄枚方線が開業しました。当初、この路線は奈良県まで延長する計画でありました。これは実現しませんでした。私市駅南側の細長い空き地が建設予定地の名残りです。昭和 14（1939）年に交野鉄道に名称変更し、昭和 19（1944）年に京阪神急行電鉄（現・阪急電鉄）に合併、昭和 20（1945）年の京阪電気鉄道の分離に伴い、京阪交野線となりました。</p> <p>原田元治郎らはこれらの鉄道を利用して、大阪府南部地域や遠くは静岡県浜松市まで織機の販路を広げました。タオルや埴辺刷子工業の歯ブラシのほか、農産物なども出荷されました。このほか、源氏の滝をはじめとした名勝地が観光地として活用されるようになりました。昭和 5（1930）年に金澤泰治、当時の磐船村、電鉄関係者らにより園芸組合も設立されました。昭和 50（1975）年頃までは私市周辺は、春は苺狩り、秋は芋ほりを目的に、大阪市内などから多くの客が週末には訪れ、私市駅前には農園事務所があり農産物も販売していました。現在は、神宮寺のぶどう狩りが定着しています。原田元治郎や篤志家の努力により、鉄道は交野の近代化と発展に貢献しました。</p> <p>○治水の近代化 ヨハネス・デ・レーケが主導した淀川の砂防事業の一環で、その支流の天野川砂防堰堤、尺治川砂防堰堤、尺治川床固工が施工されました。私市地区の西村忠逸は、私市から私部にかけて加賀田用水を整備し、交野における治水も進みました。</p>	

【「近代産業と鉄道」の発展の主な構成文化財】

種 類		主な構成文化財
有形文化財	建造物	交野市立教育文化会館 [国登録]、天野川砂防堰堤 [国登録]、尺治川砂防堰堤 [国登録]、尺治川床固工 [国登録]、加賀田用水
	美術工芸品	古文書
記念物	名勝地	源氏の滝
文化的景観		尺治の翠影、源氏滝の清涼
周辺環境		私市文化財保護推進委員会、原田元治郎、金澤泰治、西村忠逸、埴辺丑治郎、原田式織機製作所跡、信貴生駒電鉄路線予定地跡

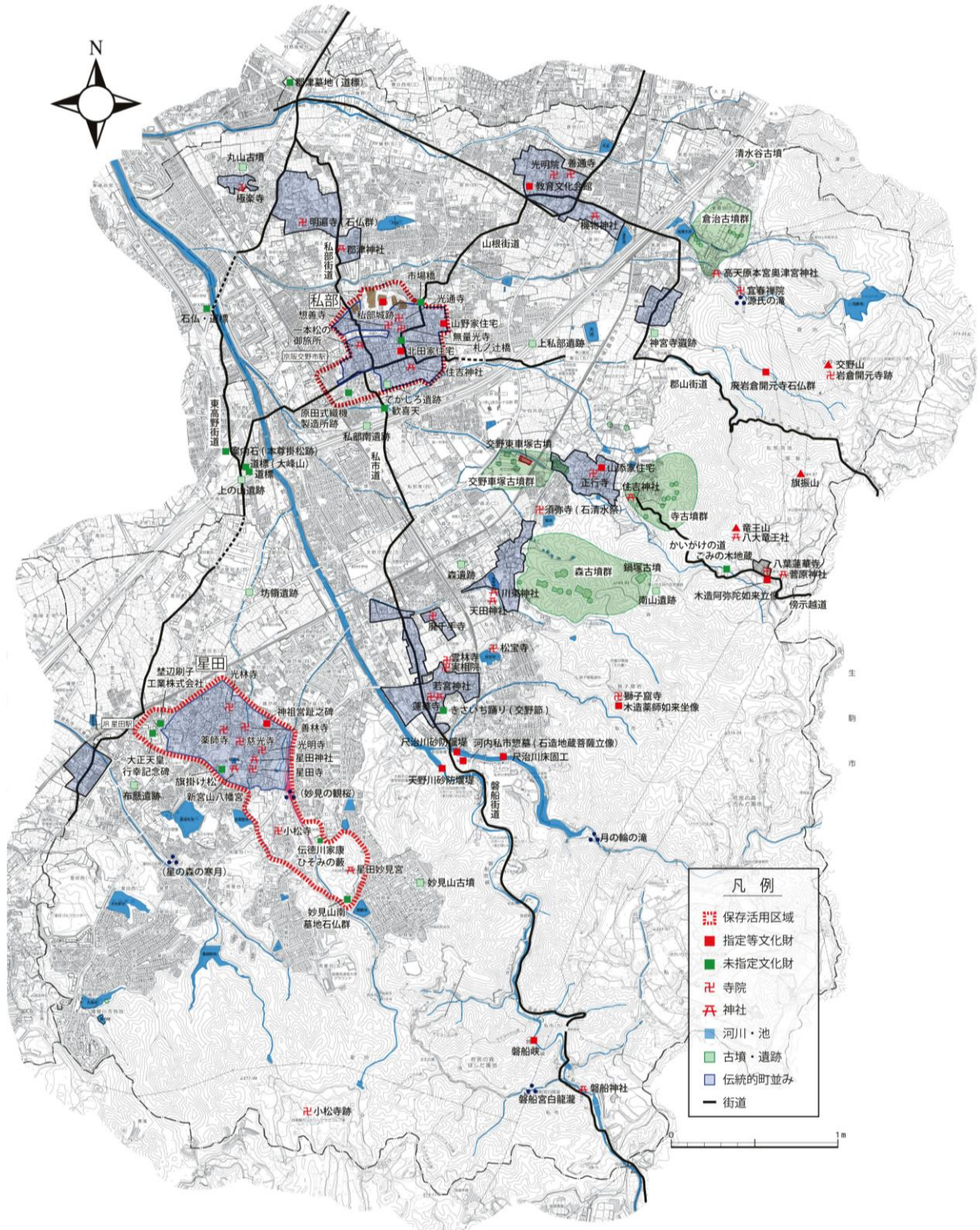


図：近代産業と鉄道の発展

6-4. 文化財保存活用区域の保存と活用

(1) 文化財保存活用区域の設定

本市において、「交野の文化財」が集中し、これらと一体となって価値を形成する「周辺環境」も含めて、当該文化財を核として文化的な空間を創出する地区として、「私部文化財保存活用区域」及び「星田文化財保存活用区域」の2地区を設定します。



図：「交野の文化財」と保存活用区域の設定（地形図：平成25年当時）

また、将来的には、倉治地区、郡津地区、磐船地区（私市・森・寺）、傍示地区などについても文化財保存活用区域の設定について検討を行います。特に倉治地区については、歴史民俗資料展示室のある交野市立教育文化会館が所在するので区域設定の次候補とします。

（2）文化財保存活用区域の内容

①私部文化財保存活用区域

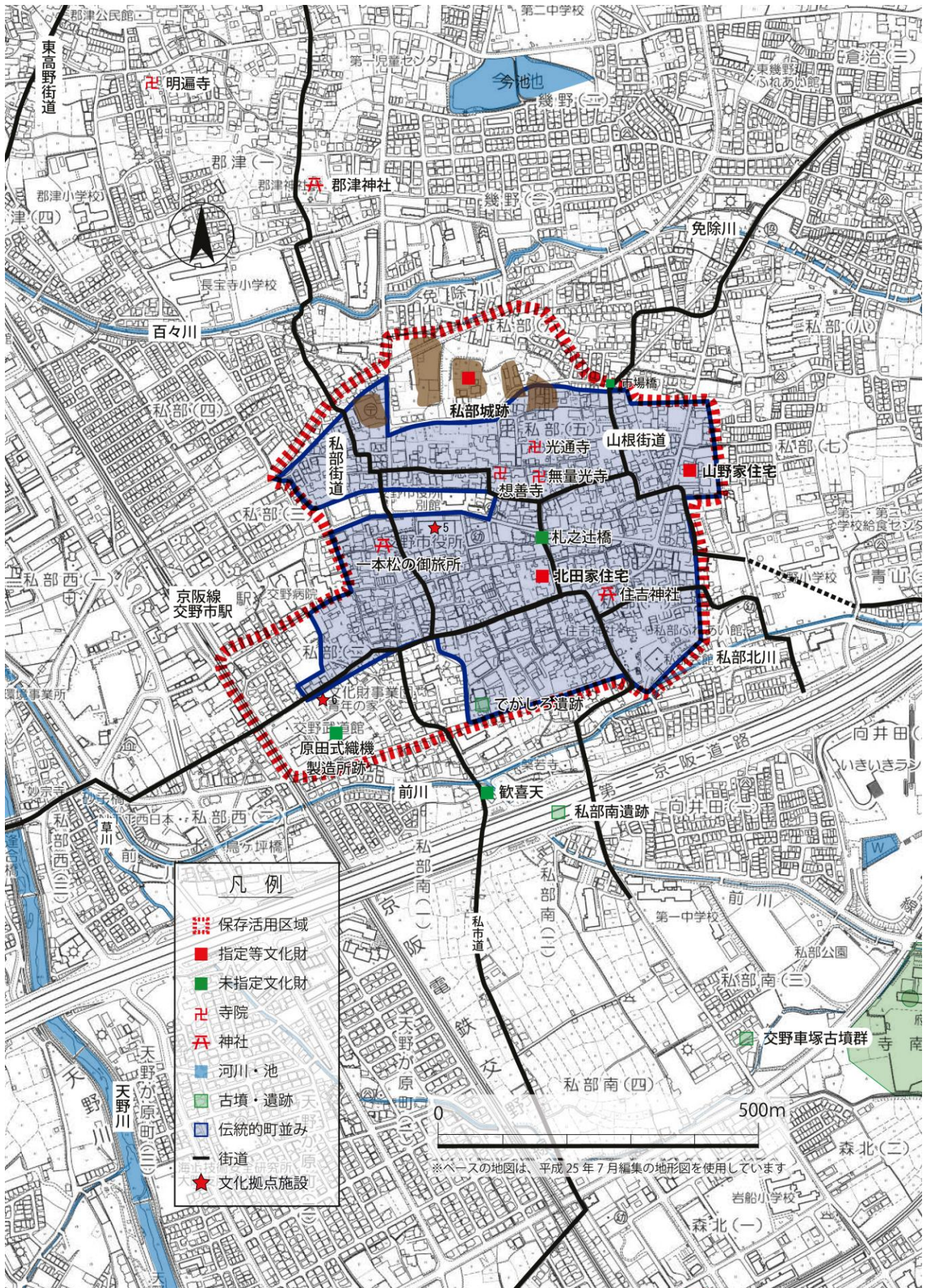
【設定理由】

私部文化財保存活用区域は、700m四方の中に、市指定史跡私部城跡、でがしろ遺跡、悉皆調査を実施した伝統的な町並みをはじめ、国指定重要文化財の北田家住宅、国登録文化財の山野家住宅に加えて古民家、土蔵、寺院などの建築物、街道筋に架かる石橋（札之辻橋、市場橋）、さらに住吉神社の本殿・大鳥居や茅葺きの御旅所など多くの「交野の文化財」が京阪電鉄交野市駅に隣接する旧集落に集中して分布し、複数の街道が行き交う環境は、「周辺環境」を含めて一体の文化的な空間を創出する条件を備えています。

また、その旧集落は「交野の歴史文化」が面的に集積する歴史文化の結節拠点と位置づけられることから、旧集落を中心に文化財保存活用区域に設定します。

表：私部文化財保存活用区域

文化財保存活用区域		私部文化財保存活用区域		
地区の範囲		東西・南北700m（江戸時代の絵図を参考に設定、P57）		
交野の歴史文化の特色（第3章）		3-4. 交野の城、3-5. 伝統的な町並み、3-6. 交野の近代産業		
関連文化財群のテーマ（第6章）		④交野の城と安見氏の記憶、⑤徳川支配と伝統的な町並みの成立、⑥近代産業と鉄道の発展		
文化拠点施設		交野市立青年の家（案内及び説明員・郷土史コーナー）・交野市役所		
私部文化財保存活用区域内の文化財	有形文化財	建築物	北田家住宅〔国指定〕、山野家住宅〔国登録〕、光通寺本堂、無量光寺本堂、住吉神社本殿、住吉神社大鳥居、札之辻橋、市場橋、一本松の御旅所	
		美術工芸品	彫刻	阿弥陀如来立像（無量光寺）、光通寺石仏群、想善寺石仏群
			工芸	梵鐘（無量光寺）
			古文書	北田家文書、原田家文書、光通寺棟札
			考古資料	私部城跡出土品
	無形文化財		山野酒造	
	民俗文化財	有形	私部住吉神社「だんじり」	
		無形	私部住吉神社秋祭（陸渡御）	
	記念物	遺跡	私部城〔市指定〕、私部南遺跡、でがしろ遺跡	
		動物・植物等	私部住吉神社クス双幹・エノキ・モミジ、無量光寺イチョウ・カイズカ・ボダイジュ双幹、想善寺イチョウ、個人宅クス	
伝統的建造物群		旧私部村の町並み		
周辺環境		私部城周辺の環境、青年の家周辺の環境、私部だんじり保存会、法明上人、安見右近、北田騰造、原田元治郎（原田式織機製造所跡）		
関連史料等		『室町殿日記』、『保見氏系図譜』		



図：私部文化財保存活用区域の範囲と区域内の文化財の位置（地形図：平成25年当時）

②星田文化財保存活用区域

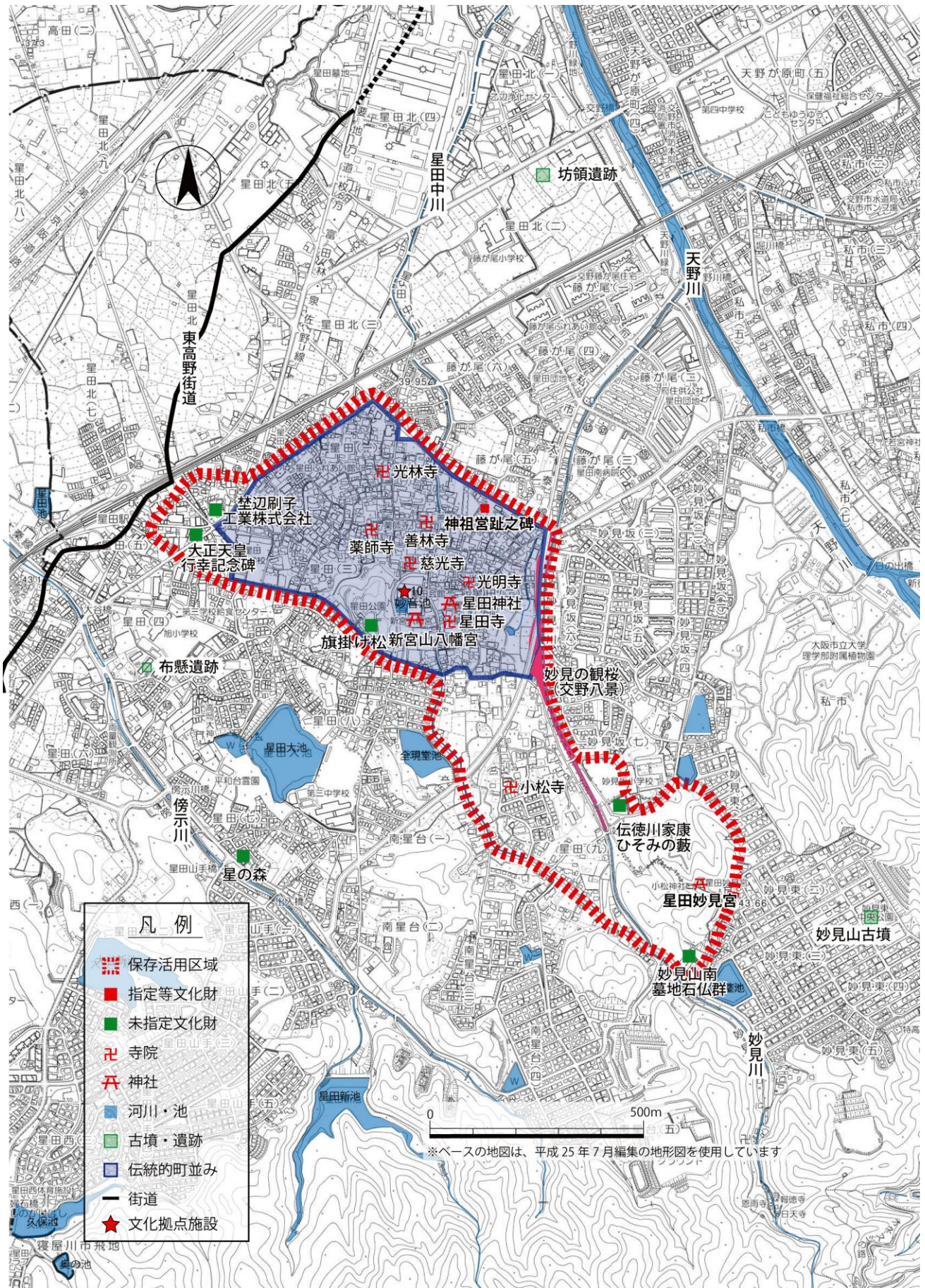
【設定理由】

星田文化財保存活用区域は、南北に1,300m、東西700mの中に、徳川家康関連地（新宮山、神祖宮趾之碑、伝徳川家康ひそみの藪）、悉皆調査を実施した星田の伝統的な町並み、星田妙見宮、星田寺、光林寺、大師堂（15か所）、石仏群などの多くの文化財が JR 星田駅や東高野街道に隣接する集落内に密集して分布し、周辺環境を含めて一体の文化的な空間を創出する条件を備えています。

また、「交野の歴史文化」が面的に集積する結節拠点と位置づけられることから、旧集落を中心に保存活用区域に設定します。

表：星田文化財保存活用区域

文化財保存活用区域		星田文化財保存活用区域		
地区の範囲		南北1,300m、東西700m（江戸時代の絵図を参考に設定、P57）		
交野の歴史文化の特色（第3章）		3-2.天野川、3-3.巨石信仰、3-4.交野の城、3-5.伝統的な町並み、3-6.交野の近代産業		
関連文化財群のテーマ（第6章）		②天野川と七夕伝承、③巨石信仰と社寺、④交野の城と安見氏の記憶、⑤徳川支配と伝統的な町並みの成立、⑥近代産業と鉄道の発展		
文化拠点施設		星田会館図書室（郷土史コーナー）		
星田文化財保存活用区域内の文化財	有形文化財	建造物	星田妙見宮本殿、光林寺本堂、善林寺本堂、光明寺本堂、慈光寺本堂、小松寺本堂、星田神社本殿、薬師寺本殿、星田寺本殿乾町大師堂、野辺橋大師堂、光林寺大師堂、中川筋大師堂、東辻屋町大師堂、札町大師堂、旧松岳庵大師堂、慈光寺大師堂、星田寺、上口町大師堂、大谷北大師祠、大谷南大師祠	
		美術工芸品	彫刻	十一面観音立像（星田寺）〔市指定〕、薬師如来立像・千体仏（星田薬師寺）〔市指定〕、石造物群（星田薬師寺）、石造十三仏（慈光寺）、一石五輪塔（遠藤昌俊墓）（星田寺）、妙見山南墓地石仏群
			工芸	半鐘（善林寺）
			古文書	星田村絵図〔市指定〕、星田村地詰帳〔市指定〕、星田村庄屋文書、平井家文書、光林寺文書、善林寺文書、慈光寺文書
			歴史資料	神祖宮趾之碑〔市指定〕
			考古資料	新宮山遺跡出土品
	民俗文化財	有形	星田神社「だんじり」、「河内木綿」製品	
		無形	星田神社秋祭、星田妙見宮七夕祭、星田妙見宮星降り祭	
	記念物	遺跡	新宮山遺跡	
		名勝地	光林寺星御前、織女石（星田妙見宮）、星の森	
		動物・植物等	星田妙見宮スギ・モミジ・シイ、星田神社モチ・シイ・エノキ・カシ、光林寺カシ双幹、個人宅クス	
	文化的景観		妙見の観桜、星の森の寒月	
	伝統的建造物群		旧星田村の町並み	
周辺環境		東高野街道周辺の環境、妙見宮周辺の環境、星田だんじり保存会、薬師寺保存会、弘法大師伝説、平井正道伝説、徳川家康伝説、吉田屋藤七、大田垣蓮月、大井川万吉、埜辺丑治郎（埜辺刷子工業株式会社）		
関連史料等		『保見氏系図譜』、『和久田家系譜』、『平井家系譜』		



図：星田文化財保存活用区域の範囲と区域内の文化財の位置（地形図：平成 25 年当時）